

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「遭難者を救助せよ！」

立山町立雄山中学校全校生徒 保護者
平成21年7月23日実施

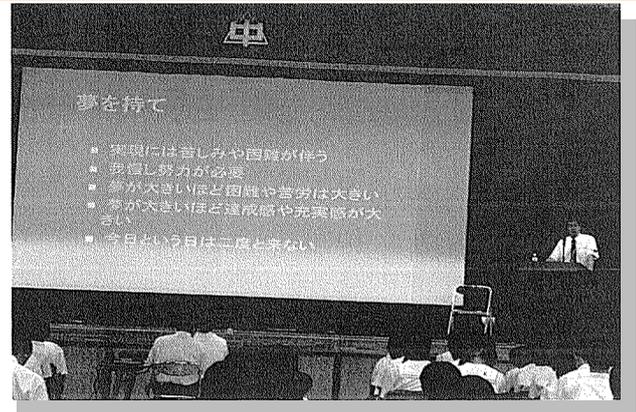
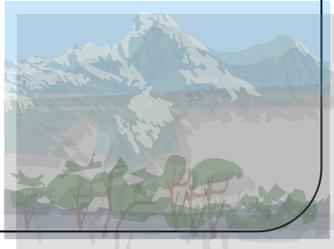
【いのちの先生】

梶田 正先生

・富山県警山岳警備隊長

【授業の概要】

- 1 DVD 視聴「遭難者を救助せよ！」
- 2 山岳警備隊の説明
- 3 感想の記入



いのちはかけがえのないもので、失うと二度と戻りません。だれかのかけがえのないいのちを救うために、自分のいのちをかけるということは私にはまねできないと思いました。

また、私たちはたくさんの人のいのちのつながりがあり、自分が存在しています。だから、このいのちは自分だけのものではないのです。そのことを忘れずに、感謝し、大切にしていきたいです。

梶田さんのお話で「今日という日は二度と来ない」という言葉が印象に残っています。どれだけ長く生きても過去には絶対に戻れないし、戻りたいと思ったらもう後悔になるのだと思いました。

私たちのいのちは「先祖からいただき、未来を育む」ものです。いのちは先祖から受け継いだ大切なものだということが分かりました。

遭難者を助けるために日ごろから厳しい訓練をしていることがよく分かりました。厳しい自然の中で遭難者を助けることはとても大変なことだと思います。でも、だからこそ、助けられた人は心から感謝するし、山岳警備隊の人はそれにやりがいを感じるのだと思います。いのちはとても尊いものです。私は、この一つしかないいのちをまもっていかねばと思いました。

梶田さんたち山岳警備隊の人たちは「人を助けたい！」という強い気持ちをもって救助活動をおこなっているということが分かりました。それと、救助の仕方や救助隊の人の心の優しさ、あきらめない心の強さを学ぶことができました。

私は救助隊のようにいのちがけで人を守ることはできません。でも、これからたくさんの人のいのちを救えるように応援したいと思います。

梶田さんは講演の最後に「夢と希望をもって歩いてほしい」といっておられました。私はいのちがある限りそうしないといけないと思いました。たくさんの人に支えられて今のいのちがあります。だから、将来悔いが残らない人生にしないといけないと思いました。